

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170200390
法人名	医療法人なごみ会
事業所名	グループホームなごやか
訪問調査日	平成 19年 7月 25日
評価確定日	平成 19年 9月 5日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200390
法人名	医療法人なごみ会
事業所名	グループホームなごやか
所在地	佐賀県唐津市鎮西町名護屋4198番地 (電話) 0955-82-2618

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成19年6月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 16 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,200 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円

(4) 利用者の概要(6月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 75.7 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人なごみ会酒井医院・松浦歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

バリアフリーのホームであるが、外観は違和感無く地域の中に溶け込んでいる。観光客などの多い名護屋城跡からすぐのところであり、買い物や散歩には不自由しない立地条件である。地域の中で唯一のホームということで、地域と一緒に地域のことに取り組み、ホームの持つ社会資源などを地域に還元するよう取り組んでいる。また地域の方の協力も大きく、共生の関係が出来ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で取り組んだ一つはホームの所在を明確にするため、外壁に入居者と一緒にホーム名を明示し、違和感が無いかたちで道路からも見やすく改善を行った。課題はチーム内での話し合いをよりよい方向で検討がなされ、行動へと繋げチーム全員で共通理解がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員各自それぞれ自己評価して再確認したり、意識を高め質の向上に全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>参加して関わって貰うことを配慮しながら、認知症やホームについて理解を得ることを目標にスタートし成果を得ている。またその都度提案した議題に建設的な意見が出され、災害の為のネットワークづくりには大きな成果となり、地域とのより深い関係を作る意義ある会議となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>常に家族と連絡を取り、確認することを怠らないよう徹底している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>老人会や民生委員などいろいろな団体と繋がりを持ち、情報を得る体制が出来ている。また行事など積極的に参加し、ホームが孤立しないよう働きかけが出来ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から地域を意識し、地域で貢献できるグループホームを目指した理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を言葉として理解し、日常の実践でも意識しながら利用者に接している。管理者は勤務中気付いたとき具体化した話をし、理解を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り普通の家庭と同じよう回覧板のやり取りをしたり、地域の行事などに参加している。またホームの特性を活かし介護の相談を気軽に行ったり、地域での集会で話をしたり協力できることで資源の還元に心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとり自己評価をした上で話し合いの場を持っている。評価を振り返りの場として素直に受け止め、チームで確認しながら皆で意見を出し、改善すべきところは出来ることから素早く取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の日程調整に心配りがされ、出席率が高く幅広い情報が得られている。参加メンバーの方々が自分のことのように積極的な意見や提案をされ、運営者を始め職員が行動へと繋げ意義のある会議となっている。	○	運営推進会議では、報告や情報交換にとどまらず、活発な話し合いが行われており、自己評価や外部評価への取り組み状況等についても参加メンバーから多くの率直な意見を引き出し一層のサービスの質の向上に活かせるものと期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議などをきっかけにより深い関係が出来、災害時におけるネットワークづくりへの支援も幅広く協力を得ている。日常問題点などをすぐ相談できる関係も出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	二ヶ月に一度「お便り」を発行して、ホームでの様子や行事の日程などを知らせている。新人職員の紹介も写真付きで行い、家族への素早いお知らせを心がけている。常に細かいことも家族と連携し、来訪時や電話で情報交換し確認を取りながら対応を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口としてホーム内の担当者、市役所の担当窓口、第三者の相談窓口も明記したものを一世帯一部は配布している。また来訪時にも説明をし、日頃から気軽に話せる関係である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員異動は基本的に行わず、利用者が安心できる関係の継続を目指している。職員は全員正職員で働きやすい環境のなか保証された待遇である。退職時には引継が出来るよう重複して採用する期間が持たれ、少しずつ慣れていただく配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時には見習い・研修期間を設けている。皆が公平に研修を受けることが出来る。法人内外の研修が掲示され希望者が申し込み研修を受けられるよう勤務などの配慮がされている。また外部研修を受け内部で伝達講習をし、皆で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に他のホームでの研修を行ったり、見学に出かけたりして体験することで職員の不安も軽減し、利用者へのサービスの広がりにつながっている。また他のホームの行事に参加し、交流して実践に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学して貰ったり、職員が自宅を訪問し顔なじみの関係を作りながら利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の自給自足の経験や、いろいろな知識などを伝えてもらい、職員は手足となって働き学んでいる。教わるが多く精神的にも支えて貰うこともあり、お互いに協働の関係が出来ている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日利用者と個別で話をする時間を居室や事務室を利用して持つようにし、いろいろな思いや意向を引き出す努力をしている。日々の暮らしの中でも買い物など外出の声かけや、整髪や衣装などへの関心を向ける手だてなどを日常的に行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意向を訪問時などに聞き出し、個々に記録されている。本人からは言葉だけでなく日常の様子から判断するなど、利用者一人ひとりに合わせて課題を決め取り組んでいる。チーム全体で気付いたことをノートに記録し、毎月の会議で意見交換をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは勿論行っているが、日常から利用者の変化は申し送り時に伝えすぐ検討を行っている。常に利用者のサインを見落とさないよう意識付けがされている。家族と本人には月に一度状況や意向を確認しあっている為、変化があった場合にもすぐ話が出来る関係である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々利用者の要望を取り入れるよう柔軟な対応をしている。ドライブや散歩などの外出にも個々に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される馴染みのかかりつけ医で受診することを優先されている。また近所のクリニックとも急な場合は協力していただく関係が出来ている。通院は必要に応じてホームでも行う体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方についても入居時に本人や家族と話し合い、医療処置を何処まで行うかなど細部まで文書で意思確認を行っている。本人・家族・チーム全体で方針を共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護について研修しチームとして理解できている。外部には写真などの無断流失が無いよう確認をしたり、運営推進委員の方々からも誓約書を取るなど徹底している。日常生活の中でも利用者の尊厳を大切に、言葉掛けや対応など常に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントによる関心事をレクリエーションに取りいれたり、利用者の希望を日替わりで組み入れている。実際に行っている反応を重視し、継続するか他の関心事を希望しているかなど検討して、より楽しんで過ごせる配慮をしている。雑誌などからも興味を示す発見が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物を始め調理や盛りつけに関心のある利用者が、参加し協力している。栄養士のバランスの良いメニューに加え、毎月食べたいメニューを一品ずつ出して貰い掲示し、個々の希望を公平に取りいれている。誕生日には優先的に取りいれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	24時間希望があれば入浴の対応をしたり、夜間の失禁などにも入浴での対応したり、同姓での介助を希望される方にも配慮している。お風呂での楽しみとして菖蒲湯や桜やバラのお風呂にして喜んで貰う工夫がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事をする・収穫を見守る、花を育てる・花を生ける、調理を手伝ったり盛りつけたり、培ってきた事で個々の力を発揮している。また職員は一人ひとりの力を出す場面づくりを心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日一回は外との関わりを持つことを目標にし、庭や畑に出たり近くのお寺参りをしたり、買い物などを計画し気持ちを外へと向ける配慮がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のための施錠を夜間しているが、日中玄関は開放し精神的圧迫のないケアを心がけている。職員間の連携で利用者の行動を分担して見守るなど、安全を前提に自由な暮らしの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議などのネットワークにより地域の全消防団の協力を得て防災訓練を行い、避難経路の確認をし専門的立場からの指導を受け、整備に取り組む体制へと繋がっている。災害の備えとして水質管理をしている井戸を保有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べやすい状態の栄養摂取を行っている。食事の量や水分量を把握し、水分量は1,000mlを目安に摂取回数などで配慮している。体重の管理も毎日記録して利用者の状態把握に役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みやすいドアの高さで普通家庭を感じさせている。居間の照明は間接照明で過ごしやすい明るさである。対面式の台所で料理をしている様子が見え、匂いなども利用者に伝わる作りである。廊下には大きな椅子が置かれ、お昼寝などしてリラックスできる場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物で使い勝手良く整理され、生活感が感じられる部屋であったり、必要な物だけを持ち込みすっきり片づいている部屋もある。利用者それぞれの好みや性格の表れた、過ごしやすい部屋となっている。		